

### 研究主題・副主題

自ら考え、判断できる児童の育成を目指して  
～道徳性を養うための授業実践を通して～

#### 1. 主題設定の理由

##### (1) 今日的教育課題から

現代社会は、科学技術の進歩・発展が生活を豊かにする一方で、様々な影響が出てきている。グローバル化が進展し、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重しあいながら生きていかななくてはならない。また、インターネットの普及やSNSの利用により、多くの情報を得ることができるようになったが、一方で相手意識の希薄さや情報モラルの問題も出ている。さらに、かつてないスピードで少子高齢化が進行し、家庭や地域が急速に変化している。自分さえ満足すればいい風潮があり、広い意味での規範意識の低下も見られる。また、いじめ問題はより深刻化し、平成27年度の小中高校におけるいじめの認知件数は、22万件を超え、暴力行為の発生件数も約5700件である。

こうした時代背景の中では、「生きる力」を育むことが重要になってくる。生きる力とは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であるとされる。そのためには、一人一人が、道徳的価値の自覚のもと、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要である。こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を果たす必要がある。

##### (2) 特別の教科道徳の考え方

文部科学省では、平成27年3月に学校教育法施行規則を改正し、「道徳の時間」を「特別の教科道徳」として新たに位置づけた。これは昭和33年の学習指導要領に「道徳の時間」が新設されて以来、道徳教育の大きな転換と言える。道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と示されている。平成25年3月に設置された道徳教育の充実に関する懇談会での「今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)」の中では、これまでの道徳の時間において、その特質を押さえた授業が行われていないこと、発達の段階が上がるにつれ、授業に対する児童の受け止め方がよくないこと、学校や教師によつての指導の差が大きいことなどの課題が指摘されている。

##### (3) 山梨県学校教育重点から

山梨県学校教育指導重点には、「知・徳・体の調和を重視し、「生きる力」を育む適切な教育編成と実施に努

める」とあり、徳の部分では「いじめの早期発見・早期対応に向け、適切な児童生徒理解に基づく相談体制の充実を図り、迅速かつ組織的ないじめ対応の取組を推進する」としている。山梨県において、平成27年度のいじめの認知件数は公立小中学校で2562件であり、前年度よりも209件増加している。いじめの解消のためにも、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める道徳の授業は重要な役割を果たすと考える。

#### (4)甲府市学校教育指導重点から

甲府市の学校教育指導目標「豊かな感性とたくましい行動力を持ち、互いのよさを認め合いながら、進んで自己の課題に取り組むことのできる、心身共に健康な児童生徒の育成を目指す」となっている。重点目標は「思い遣る心の育成」「生きる力を育む教育の展開」である。

校内研究において、児童が主体的に自己の考えを深化させる道徳の授業をつくり上げていくことで、自らの考えを持ち、行動できる児童に育つであろう。それは、甲府市の学校教育目標の具現化にもつながる。また、対話的な学びを意識して授業を作ることで、多様な考えと出会い、多面的・多角的に物事を見つめることができるようになると期待する。しなやかな心を持ち、たくましい行動力を持った児童の育成を目指したい。

#### (5)学校教育目標から

本校の学校教育目標は以下のとおりである

##### 1学校教育目標

「知・徳・体」の調和のとれた児童の育成を図り、児童一人一人のよさや可能性を伸ばす。

- 心豊かな子 すなおで明るい子ども 思いやりのある子ども(思いやり・感謝・情操)
- 考え深い子 進んで学習する子ども 精一杯努力する子ども(創造・思考・意欲・実践)
- たくましい子 心身ともに健康な子ども 最後までやりぬく子ども(健康・安全・気力・忍耐)
- 力を合わせる子 互いのよさを認める子ども 協力する子ども(自立・責任・協力)

##### 1 学校経営の基本方針

「調和と統一のとれた学校経営、創意に満ちた教育活動」

- (1) 21世紀を生きる児童が、自ら学び自ら考え、判断し行動することができる実行力と、たくましく生きる力や思い遣る心を身につけることができる、教育課程の編成と実施に努める。
- (2) 学校教育目標の具現化の基盤は安定した学級経営、協力し合う学年経営の充実にある。「認め合う 励まし合う 学び高め合う 喜び合う」中でよりよい人間関係を育て、児童が安心して自分の思い・考えを素直に表現できたり、意欲的に学ぶことができたりする楽しい学校づくりに努める。
- (3) 憲法並びに教育基本法の理念を守り、学習指導要領の基本方針及び、県・市の学校教育指導重点を受け、保護者、地域社会の人々と連携を図るとともに、信頼される学校教育の推進に努める。
- (4) 児童にとって学ぶ意欲と豊かな感性を育てる教育環境と清潔で安心・安全な活動環境の整備・充実に努める。

21世紀を生きる子どもたちは、変化の激しい時代を生きていく。その中において「知・徳・体」の調和のとれた人間であることが求められる。一人一人が将来に対する夢や希望、自らの人生や未来を切り開いていける力を育むようにしていかななくてはならない。

本校の学校教育目標の「徳」である「心豊かな子」を重視し、学校教育目標の具現化に努めていきたい。そのためには、来年度の「特別の教科道徳」の完全実施に向け、授業改善を行い、児童が深く考える道徳の授業に転換していく必要がある。未来を担う子どもたちが、主体的に考え、協働的に学ぶことで、将来、問題場面に出会ったときや判断しなければならないときに、自分で考え判断し行動できるようにしていくことが必要であると考え、本校内研究の主題を設定した。

## (6) 児童の実態より

### ① 学校グランドデザインより

- 生活面
  - ・素直で明るく活動的な子どもが多い。
  - ・よくあいさつをし、楽しく生活できる。
- 学習面
  - ・決められた課題に対して真面目に取り組む児童が多い。
  - ・深く考える姿勢や粘り強さには課題が見られる。

### ② 各学年のアンケートより

- ・明るく生活する児童が多い。
- ・友達と仲良くしようとする気持ちが強い。
- ・掃除や係の仕事等働くことの大切さを理解し、進んで働こうとする子が多い。
- ・時と場合によって言葉遣いを選んだり、行動したりすることが苦手な子どもが多い。
- ・きまりを守ろうとする気持ちはあるが、楽しいことが優先してしまったり、友達と一緒にという気持ちもあり、きまりを守れないこともある。
- ・高学年になると、自分の考えや意見を伝えることができない子も多い。

このような児童の実態を踏まえ、子どもたちが主体的に考えることで、自分の意志で判断をしやすいのではないかとされる。また、自分とは異なる意見を持つ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考えられるだろう。そのような思考を通して、道徳的価値の理解を自分自身で深めることができるだろう。そして、子どもたちの主体的な判断、実践に繋がれると考える。

## (7) これまでの本校の校内研究より

平成26年度から平成28年度まで、「確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもの育成～本校児童に身につけさせたい力の定着に向けて(3年次～)」の研究主題のもと、国語科の「書くこと」に焦点を当て研究を進めてきた。その結果、書く意欲が増し、書くことに抵抗なく取り組む様子が見られた。また、目的意識・相手意識を持って書くようになり、伝えるために分かりやすく書くように意識している姿も見られた。

これからの道徳の授業の中で求められているのは、「考える道徳」である。考える道徳では、まず自らの考えを持たなければならない。そのためには、自ら考えたことを「書く」ことも必要になってくる。昨年度までの研究の成果を、今年度の道徳の授業の中で生かしていきたい。

また、昨年度まで日常の取組として行ってきた、1分間スピーチや日直の話なども、道徳でも筋道を立て、自分の考えを発表するときに役立つものと考えられる。

## 2. 研究目標

---

児童が、道徳的価値を理解し、主体的に考えることができる道徳の授業の工夫。

## 3. 研究内容

---

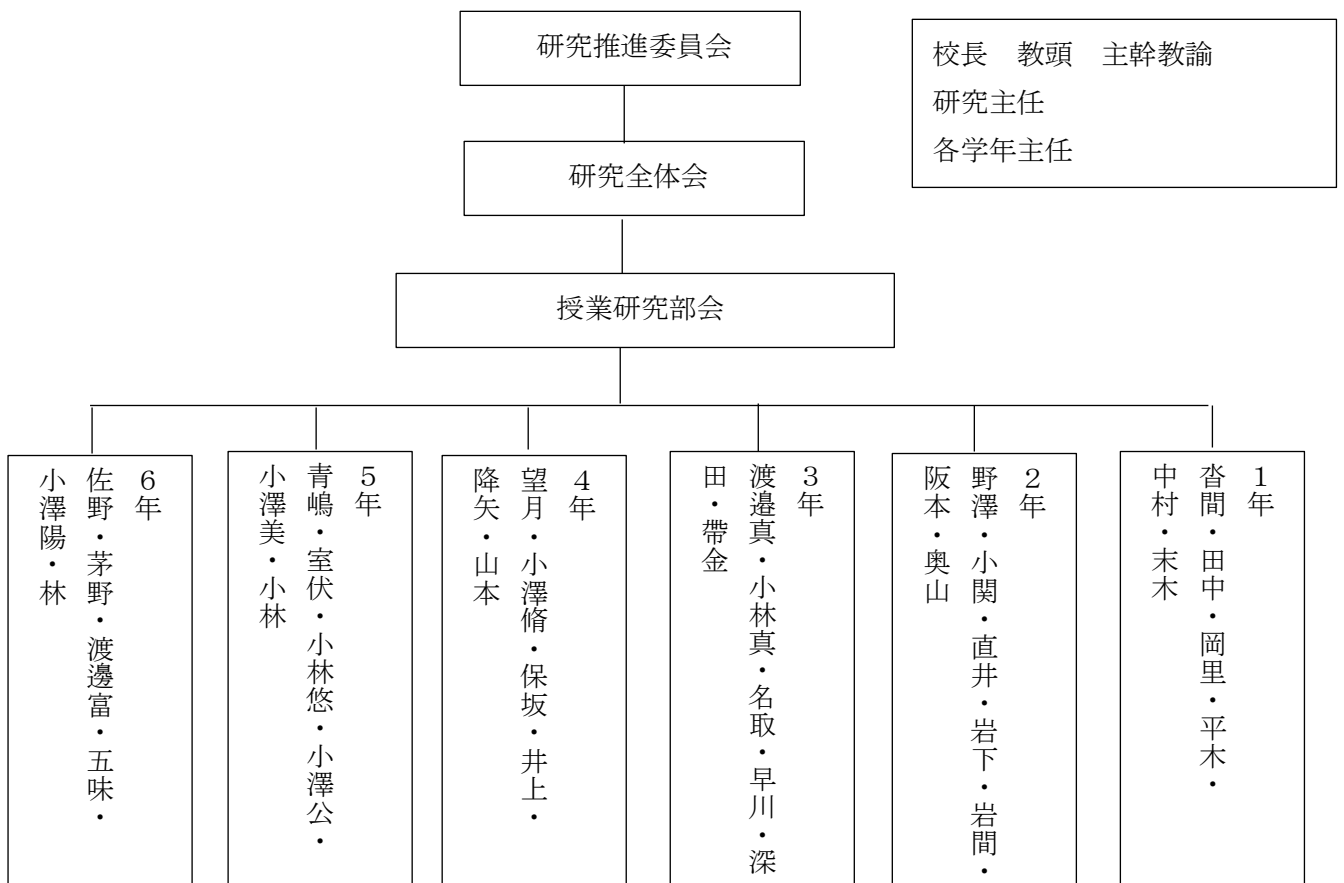
- ・「特別の教科道徳」が目指しているものを理解し、授業づくりに生かす。
- ・評価や教育課程編成についての理解を深め、充実した教育課程の編成を行う。
- ・授業実践を行い、その成果と課題を洗い出し、次年度に生かす。
- ・家庭や地域との連携を図り、道徳性を養うための日常的な取り組みを実践する。
- ・教材開発を行う。

## 4. 研究組織について

---

各学年・各クラスで1つ授業実践や日常の取り組みをする。

必要に応じて各学年で話し合う。



## 5. 研究計画

研究会名	開催日	主な形態	主な研究・活動内容
第1回校内研究会	4/ 19	全体研	○昨年度までの校内研究の概要と今年度の校内研究の方向性について
第2回校内研究会	5/ 19	全体研	○今年度の研究について ・研究の概要(研究主題, 副主題, 研究計画, 研究内容, 研究組織等)
第3回校内研究会	6/ 16	全体研	○道徳の授業づくり, 授業案についての学習会
第4回校内研究会	7/ 5	全体研後 各自(各学年)	○今年度の研究について ・授業計画等
第5回校内研究会	7/ 28	全体研後 各自(各学年)	○道徳の評価, 教育過程編成について *指導主事招聘予定 ○授業案づくり, 教材づくり
第6回校内研究会	8/ 21	全体研	○教育過程協議会還流報告
第7回校内研究会	9/ 7	全体研	○授業案づくり, 教材づくり,
第8回校内研究会	10/ 30	各自	○授業案づくり
第9回校内研究会	11/ 27	全体研後各自( 各学年)	○今年度の反省 ・研究の妥当性の検証 ・成果と課題の交流 ・研究紀要の作成について
第10回 校内研究会	1/ 15	全体研後 各学年	○教育課程の編成
第11回 校内研究会	2/ 13	全体研	○研究のまとめと来年度の方向性について

